

特集1 ロジスティクス

世界の物流拠点、シンガポール

製造やサービス業のグローバル拠点であるシンガポールには、数多くのサプライチェーン管理会社や物流企業が進出し、アジア市場や業界の複雑な問題に対応できる革新的なソリューションを提供しています。現在、顧客の物流業務を一括して請け負う3PL（サードパーティーロジスティクス）事業の世界大手25社のうち実に17社がシンガポールに域内統括機能や域内拠点機能を設け、汎アジア事業など重要な業務の拠点としてシンガポールを活用しています。

物流、SCM企業の戦略的拠点

世界最大手の物流サービス会社フェデックス・コーポレーションの子会社フェデックスエクスプレス (FedEX Express) は、チャンギ国際空港の自由貿易区内にあるALPS (エアポート・ロジスティクス・パーク・オブ・シンガポール) に隣接する敷地に配達・集荷・航空業務を一括して行う新しい倉庫を建設中です。毎時9,000個の荷物仕分け機能とトラック250台分の収容能力をもち、完成後は、貨物取扱事業をワンストップで実施するほか、グレードアップしたサービスとスムーズな接続性を顧客に提供できるようになります。大手物流企業に加え、アジア太平洋地域や中東の3PL企業も地域統括機能やその他グ



写真提供: SATS

ローバル機能をシンガポールに集中させています。

エンド・ツー・エンドのサービス

シンガポールに進出している3PL企業は、包括的なグローバルソリューションを提供することでメーカーなど企業の物流業務を最適化できるよう支援しています。アジリティ (Agility)、日本通運、シエンカー (Schenker) などはシンガポールからエンド・ツー・エンドのサービスを提供し、付加価値のある知識集約型ソリューションや航空貨物、倉庫管理、配送から資金調達まで一括した物流チェーン管理を請け負っています。

世界トップクラスの製造拠点

シンガポールにはこのような包括的な物流ソリューションを提供できる土壌が整っており、製造業や商社が積極的に活用できるようになっています。成長産業とみなされているバイオ医療、化学、エネルギー、技術、消費者製品などを扱う世界トップ企業は既にシンガポールにグローバルあるいは地域の製造拠点を設けています。例えば、シンガポールでは洋上石油掘削装置の世界生産の7割が製造されており、航空事業のMROサービス (整備、修理、点検) のアジア随一のロケーションとして知られています。また、アジア内でバイオ産業の集積が進んでいるのもシンガポールで、医薬品、栄養食品、医療機器の年間生産額は約1兆2,600億円 (210億SGD) にのぼります。

専門的なソリューション

世界トップの製造業の拠点に近いことから、3PL企業はシンガポールにて各顧客のニーズにあったサプライチェーンソリューションを設計しています。例えば、エネルギー効率の高い電子機器に高性能シリコン・ソリューションを提供しているオン・セミコンダクター (ON Semiconductor) は、DHLそしてEDBと提携し、約2億7,300万円 (350万USD) を投じた最先端物

流施設を2011年6月にオープンしました。新施設は完成品出荷拠点として世界各地の顧客に製品を配送、グローバルサンプルセンターとして、組立や検査業務に必要な金型やウエハーを保管し、また地域拠点としては南アジアの顧客向け製品整理や出荷を実施しています。

スイスのDKSHは消費財・医療製品配送センターを7月にオープンしました。在庫回転率の早い包装済み商品、「ファースト・ムービング・コンシューマー・グッズ (FMCG)」や医薬品を扱う企業を対象とした最新物流施設で、特定分野のロジスティクスサービスを手がけています。DKSHのサービス拡大は、シンガポールの消費財・医薬品ビジネス拠点としての魅力を高めるほか、新たな成長市場を開拓する良い機会となっています。

シンガポールで集積が進むバイオ医療産業のニーズをみたすため、TNTはライフサイエンスに特化した世界最大の地域物流センターを2007年にチャンギ国際空港そばに開設しました。コールドチェーンを施し、域内の消費者市場への配送を24時間以内に実施しています。面積は6万5,500平方フィートで、医療品の年間取扱額は40億円(6,610万SGD)以上と見込まれています。施設は専門家によって管理されており、医療メーカーがアジア太平洋市場向け製品の保存や整理に活用しています。

日本企業もシンガポールを活用

アジアの台頭が顕著になる中、多くのアジア企業も新しい市場開拓に乗り出しています。世界市場へのアクセスがよく、国際感覚をもつ優秀な人材が豊富にいるシンガポールで、日本企業もまたプレゼンスを拡大し、事業機会創出の戦略的拠点として注目しています。日本通運、近鉄エクスプレス、郵船ロジスティクスや山九など日本の3PL大手がシンガポールで事業拡大を行っています。2011年10月には、阪急阪神エクスプレスが新大型倉庫を開設し、事業の国際化を加速しアジアの成長機会をとらえるため動き始めました。

サプライチェーン管理 (SCM)

成長著しいアジア市場は多国籍企業そしてアジア企業にとって大きなビジネス機会を意味しています。多くの企業がア



写真提供: PSA Corporation Ltd



写真提供: PSA Corporation Ltd

ジアの多様性に取り組むなか、シンガポールは物流会社、サプライチェーン管理(SCM)企業、サプライヤーや製造業の汎アジア事業を支援する戦略的な拠点となっています。アジア市場の開拓を目指す海外の物流企業はシンガポールが持つアジア市場の知識、優秀なSCM人材、そしてSCM機能を活用することで革新的な汎アジアのSCMソリューションを開発、導入することができます。

革新的な汎アジアソリューション

シンガポールにあるアジア有数のロジスティクス研究機関、「The Logistics Institute-Asia Pacific (TLI-AP)」では、米ジョージア工科大学、シンガポール国立大学と提携し、アジアや欧米地域でめまぐるしく変化する物流ニーズの研究を行っています。業界と連携し質の高い調査や分析を行うことで、TLI-Asiaは学術機関との連携や応用研究プロジェクトを推進し、グローバル企業に影響力あるソリューションを提供しています。

SCM人材

シンガポールはSCMの人材が豊富で、環境配慮したSCM「グリーンSCM」を専門にする人材もそろえています。人材育成にも積極的で、国内の理系卒業生は年間8,500人以上で、TLI-APのダブルディグリー・プログラム(修士課程)などのサプライチェーン管理コースを修了した人材を数多く輩出しています。TLI-APの修士課程修了者は世界で普及している様々なサプライチェーン管理手法への深い知識を有することから、多くが物流会社やサプライチェーン管理会社の管理職として採用されています。

おわりに

世界銀行の2010年報告書によると、シンガポールはアクセスの良さ、世界トップクラスのインフラそしてビジネスがやりやすい環境などが高く評価され、世界の物流拠点ランキングで第2位に選ばれています。専門的な物流サービス、革新的なサプライチェーン管理、優秀な人材を備えたシンガポールは、成長するアジア市場を活用し、アジア有数の物流・輸送ハブとしての地位を維持していきます。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=60日本円、1米ドル(USD)=78日本円(2011年12月3日現在)で算出しています